

新型コロナウイルス感染症が感染症法の2類から5類になって、半年が過ぎようとしています。第9波は9月中旬にピークアウトしたようにみえます。8月末からはA型インフルエンザが増え始め、コロナとの同時流行になりました。今年はじめにインフルエンザに罹患した人も再びインフルエンザにかかっています。各種感染症の流行については、本当に珍しい年になりました。コロナ禍で多くの感染症に対する集団免疫が低下したことと、行動制限が解除され、マスクをする人も減ったことが大きな原因だと思います。これから、どうなっていくのか、年明けにはコロナの第10波がやってくるでしょう。おそらくインフルエンザとの同時流行になるでしょうが、流行規模が小さいことを祈るばかりです。気になるのは、数年流行のみられないB型インフルエンザです。大流行にならないければよいのですが・・・。

[最近目立つ病気]

前号で、「まるで感染症の津波のように感じます。」と書きました。コロナの第9波は9月中旬からピークを過ぎたように感じます。RSウイルス感染症、ヒトメタニューモウイルス感染症が減りつつあり、夏風邪ウイルスも減ってきているようです。胃腸炎は増えつつありますが、例年どおりの傾向です。溶連菌感染症、アデノウイルス感染症は多くはないですがずっとみられています。季節はずれのインフルエンザが9月に入って増加しています。ワクチン接種がはじまるのが10月からなのでワクチンを打つ前にかかってしまった人も多いでしょう。このままの状態でのインフルエンザ流行シーズンにつながっていきそうです。3密(密閉・密集・密接)を避けて、手洗い励行、マスクの着用が感染症予防の基本です。実際にコロナ禍では、飛沫接触感染対策でインフルエンザの流行は抑えられていたのです。もう一度、気持ちを引き締めて日常生活を送りましょう。

[新型コロナウイルス感染の現状]

厚生労働省によると10月1日までの1週間に全国およそ5000の医療機関から報告された新型コロナの患者数は前の週から1万641人減って4万3705人となりました。また、1つの医療機関当たりの平均の患者数は8.83人で前週の0.8倍となりました。前の週から減少が続くのは4週連続で、46の都府県で減少しました。厚生労働省は全国の流行状況について「4週連続で全国的に減少しているのでピークアウトしたと考えられるが、インフルエンザなどの患者数は増加傾向にあるので、引き続き基本的な感染対策を行ってほしい」としています。(2023年10月6日NHKニュースより)

[インフルエンザ]

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因病原体とする急性の呼吸器感染症で、世界中で流行がみられます。主な感染経路は、咳、くしゃみ、会話等により発生する飛沫による感染(飛沫感染)ですが、物の表面等に付着した飛沫に触れた手指を介した接触感染もあります。症状としては、発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛などが出現し、

鼻汁・咳などの呼吸器症状がこれに続きます。いわゆる「通常感冒」と比べて全身症状が強いことが特徴ですが、通常は1週間前後の経過で軽快します。症状のみで新型コロナウイルス感染症(COVID-19)との鑑別は困難です。症状が強くてインフルエンザかもしれないと思ったら、医療機関を受診しましょう。合併症を起こすリスクの高い人は早めの受診が勧められます。インフルエンザと診断された場合には、2日以内に抗インフルエンザ薬を使うと、症状を軽くすることができます。

(治療薬)

現在、抗インフルエンザウイルス薬の中心はノイラミニダーゼ阻害薬です。ウイルスを細胞内に閉じ込めて他の細胞への広がりを防ぐ働きをする治療薬です。成人では1日2回、5日間服用するオセルタミビル(タミフル、オセルタミビル)、1日2回、5日間吸入するザナミビル(リレンザ)、1回の吸入で済むラニナミビル(イナビル)が中心です。9歳以下の子どもではオセルタミビルのドライシロップを使います。ペラミビル(ラピアクタ)は内服も吸入も難しい人にも使用できる点滴薬です。ただし当院は採用していません。さらに2018年からエンドヌクレアーゼ阻害薬という新しい薬が承認され、治療薬の選択肢が増えました。ウイルスが増殖する際に必要な酵素を阻害することで、増殖そのものを抑える治療薬です。エンドヌクレアーゼ阻害薬には、パロキサビル(ゾフルーザ)という内服薬があります。オセルタミビルは5日間の服用が必要ですが、パロキサビルは1回だけの服用で済み、のみ忘れの心配が少ない利点があります。インフルエンザ薬による異常行動への影響については、最近の研究で、インフルエンザ薬をのむ・のまないに関わらず異常行動が発生していることがわかっています。つまり、薬による影響ではなく、インフルエンザという疾患自体によって異常行動が起こっていると考えられます。実際に子どもでは、抗インフルエンザ薬を使用する・しないにかかわらず、インフルエンザそのものの影響により、急に走り出す、部屋から飛び出そうとするなどの異常行動を起こす恐れがありますので、

少なくとも発症から2日間、異常行動を起こさないか、注意して見守ることが大切です。

[コロナワクチン秋接種]

「令和5年秋開始接種」は、令和5年9月20日から令和6年(2024年)3月31日まで実施しています。

令和5年秋開始接種は、1人1回限り受けることができます。料金は無料です。対象は、以下を全て満たす方です。

▷生後6か月以上の方

▷日本国内で初回接種(1回目・2回目)が完了している方又はそれに相当する接種が完了している方。

●追加接種(3回目以降の接種)を受けたかどうかは問いません。

▷前回の接種から、以下の一定期間が経過していること。

●ファイザー社又はモデルナ社のオミクロン株対応1価ワクチンを接種したい場合:3か月以上

●武田社(ノババックス)の従来ワクチン(1価)を接種したい場合:6か月以上



☆西念の駅西福祉健康センター内の金沢広域急病センター(Tel:222-0099)では午後7時30分から11時まで小児科と内科の診療を年中無休で行っています。加畑の担当は11/2の予定です。

☆金沢市では乳幼児の任意接種のワクチンについての助成金制度を行っています。詳細は受付でお尋ね下さい。

☆当院のHp(<https://kabata-cl.jp>)から順番待ちシステムにアクセスできます。ネットで順番予約ができますので、ご利用ください。

☆世界の宝「憲法9条」を次の世代に贈りましょう。

